

竹原委員（自民議連）

令和4年3月8日
教育長答弁実録
（教育委員会）

（問）学びの変革の推進について

本県においては、「広島で学んで良かったと思える 広島で学んでみたいと思われる 日本一の教育県の実現」を基本理念に、主体的な学びを促す学びの変革の推進を全国に先駆けて実施してきたが、そこで教育現場がどのように変わったのか、現状の成果、課題について教育長に伺う。

（答）

本県では、全国に先駆けて課題発見・解決学習など「学びの変革」の取組を進めております。

平成28年度から令和2年度にかけて、課題解決型の学習活動に取り組む生徒の割合が66.4パーセントから73.1パーセントへと6.7ポイント上昇し、また、勉強が社会生活等の中で役立つと考える生徒の割合が77.3パーセントから80.8パーセントへと3.5ポイント上昇するなど、「主体的な学び」が定着している生徒の割合が増加しております。

本年度から、課題解決型学習に積極的に取り組む生徒の更なる増加を目指して、商業高校におきまして、先行的に、起業家精神の育成を図る学習プログラムを導入し、より実践的で探究的に学ぶことができるカリキュラムの開発に取り組んでいるところでございます。

また、令和4年度から、各教科での学習を実社会での課題発見・解決に生かしていくための教科横断的な学習モデルの開発や、教育課程外において学校の枠を越えて生徒が集い、共通のテーマを設定した探究活動など、STEAM教育の視点を取り入れたカリキュラム開発に取り組むこととしており、こうした取組を通して、「主体的な学び」の更なる深化に積極的に取り組んでまいります。